届け 世界の果てまでも

令和４年２月２２日　Ｎｏ．６３　文責　校長　飯久保一男

４月から，小笠原小学校は「小中一貫校」になります

４月から，旧櫛形町の（※以降「櫛形中学校区」で統一します）小学校４校（小笠原小・櫛形北小・櫛形西小・豊小）と中学校１校（櫛形中）の５校は，小中一貫校としてスタートします。これにより校名が通称

小中一貫校 南アルプス市立 小笠原小学校

となります。正式名称はこれまで通り「南アルプス市立小笠原小学校」のままです。今号より数回に渡って，小中一貫教育について紹介させていただきます。小中一貫校の「よさ」をご理解いただければと思います。

櫛形中学校区５校の学校教育目標は次の通りです。

【櫛形中学校区小中学校教育目標】

『櫛形から，世界に羽ばたき未来を拓くあやめっ子』

「ふるさとを愛し，未来を志向し，高い志で多種多様な世界に一歩を踏み出す児童生徒の育成」
「対話を通して学び合い，思いやりの心を育て，共生し共創できる人間性豊かな児童生徒の育成」

小中一貫校の開始に向け，地域有識者と学校関係者で「櫛形中学校区小中一貫教育推進協議会」を組織しての協議，５校の校長の話し合い，教頭の話し合い，合同での話し合い，５校の教職員の研修会などを重ねてきています。さらに，教職員が「授業研究部」「カリキュラム研究部」「児童会・生徒会活動研究部」「特別支援教育研究部」などの８つの特別研究部に分かれて，小中一貫教育について研究を深めてきています。

これまでも，櫛形中学校区の５つの小中学校では，教職員が授業を見合ったり，４つの小学校で球技会を開催したり，あいさつ運動などで児童会･生徒会が交流をしたり，特別支援学級の子どもたちが交流をしたりと，小学校と中学校，小学校と小学校での連携した取り組みが行われてきています。

これらの活動を含む様々な活動，学習・授業，教育課程を小中一貫教育の視点で見直し，統一した視点で，系統立てて学習や活動をできるようにしていくことが小中一貫校です。

〇５つの小中学校が，お互いに連携します。
〇５つの小中学校が，教育課程を接続させます。
〇５つの小中学校が，指導方法や評価方法を共通にします。
〇５つの小中学校の子どもたちや教職員が，様々な交流をしていきます。

これらの取り組みによって，小学校を卒業した子どもたちが，中学校に入学しても大きなギャップ（中１ギャップ※）を感じないようにすることや，不登校の子どもを減らすことにつながると考えています。小学校６年間と中学校３年間の計９年間を系統的で一貫した教育を行うことで，学力の向上，異学年で交流することによっての精神的な発達などの多くの教育的な成果が生まれることをめざします。

※中１ギャップ
中学校へ進学したとき，それまでの小学校生活とは異なる新しい環境や生活スタイルなどになじめず，授業についていけなくなったり，不登校が起こったりすることを指します。原因として，学級担任制から教科担任制に変わること，制服を着用すること，先輩・後輩の関係が生まれること，部活動に所属することなど，また，複数の小学校から中学校へ進学するために友人関係の再構築が必要になることなどがあげられています。

学習指導要領では，

「何ができるようになるか」

という観点で＜資質・能力＞を整理し，学校教育で育成をめざす，資質・能力の３つの柱をあげています。

〇学びに向かう力・人間性等

「どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか」

〇知識・技能

「何を理解しているか」「何ができるか」

〇思考力・判断力・表現力等

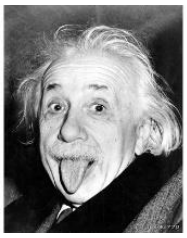
「理解していること・できることをどう使うか」

今を生きる子どもたち，これからの未来を生きる子どもたちは，単に多くの知識を覚えることだけでは対応しきれない様々な場面が予想されます。現在では，記憶するよりもはるかに多くの，しかも，高度な情報が，パソコンやスマホで短時間に簡単に手に入ります。ＩＣＴが一般的になり，ＡＩが身近になった現在の高度情報化社会は，記憶に頼った知識で，これから出会うであろう様々な場面に適切な対応をすることが難しい世の中です。学習指導要領にも掲げられているように，これからの教育は，知識や情報を「何ができるか，どのように使うか，どう関わるか」という「活用できる資質・能力」として身に付けることが大切になります。これらの力を，小学校＋中学校の９年間の系統的な教育の中で育てていくことが，小中一貫校の目標の一つです。

…話をやわらかくして，脱線して終わりにします。

調べられるものを
いちいち覚えておく必要などない。

アルベルト・アインシュタイン



アインシュタインがこの言葉を残した当時は，天才アインシュタインだからこそ言えた言葉だったのかもしれませんが，現在では，そうだよなぁと思える言葉です。少し前まで私は居間に国語辞典を置いて，言葉を探すときや言葉づかいに自信がないとき，言葉の意味を確かめるときなどに調べるようにしていました。今では，その国語辞典はほこりをかぶり，何かを調べるときは，パソコンやスマホを使い，Google や Yahoo などの検索サイトで調べています。今回この言葉を探すときに，「そういえば確かアインシュタインが知識は覚える必要がないと言っていたっけ？」という，私のうろ覚えな記憶で「アインシュタイン」「知識」「必要ない」と入力して検索しましたらすぐに見つけられました。曖昧なことや知らないことでも，簡単に調べられる世の中です。そのためには，パソコンやスマホなどの道具を使いこなす能力が必要になります。以前は必要なことや大切なことは，手書きで必死にメモにとったものですが，今ではスマホで「写メ」に残したり，動画に残したりすることで，メモに代えられることも多くあります。　　むむっ「写メ」ってすでに死語ですか？

…さらに脱線します。

アインシュタインは，人前では笑顔を見せなかったという話が残っています。著作権フリーのアインシュタインの写真を探すと，他にもいくつかありましたが，今号では，あえて上の写真を掲載しました。舌を出している有名なこの写真は，１９５１年３月１４日，アインシュタインの７２歳の誕生日に，カメラマンから「笑ってください」とリクエストされ，危うく笑顔になりそうになってしまい，とっさにそれを隠そうとした表情なのだそうです。実は，アインシュタインもこの写真が気に入ったようで，カメラマンに何枚も焼き増しを頼んだといわれています。この写真は，１９５１年度のニューヨーク新聞写真家賞のグランプリを受賞しています。さらに，その後，アインシュタインの功績を称えた切手にも採用されています。